

東京スタイル ウエイブインター買収 F1層向け、さらに強化

東京スタイルは1日、ヤングレディスカジュアルブランド「goa」(ゴア)を主力とするアパレルメーカー、ウエイブインターナショナル(東京、佐伯嘉信社長)の全株式の77.83%を取得し、連結子会社化した。今期(12年2月期)実施したM&A(企業の合併・買収)は4件目。新ブランドやこの間買収した子会社と合わせ、本気で対応が手薄になっているF1層(20、34歳の女性)向け事業をさらに強める。

取得株式数は7613株で、取得金額は非公表。これまでのM&Aと同様、「相手先企業の

経営体制を尊重」(中島芳樹社長)し、佐伯社長ら3人の役員は統括する。東京スタイルからは原島春樹代表取締役専務を代表取締役会長に据えるなど4人を役員として派遣する。ウエイブインターは国内での出店を加速し、将来は中国を中心にアジアでの販売も計画する。

ウエイブインターは96年設立で、資本金5500万円、5月末の従業員数は236人。ナチュラルビーンティ調カジュアルのgoaとそのメンズ「goaメンズ」、トレンドミックス型のレディスカジュアル「パナシ」、OL向けの通勤着と週末カジュアルの「マニックス」を駅ビル・ファッションビル、百貨店などに計47店展開する。11年8月期は売上高45億7000万円(前期比9.5%増)、経常利益1億8000万円(20%増)、純利益4300万円(23%増)。

東京スタイルは本体では百貨店向けミッシィ・ミセスブランドが中心。「バランスが取れた事業ポートフォリオを確立する」ため、昨年からの既存ブランドの整理と並行して、百貨店向

けを含めて、未開拓分野を対象にしたブランド開発やM&Aを実施してきた。特にF1層向けを重点とし、今期買収したセレクトショップ「ザ・ファースト・ウイメン」などを運営するフィット、ローズパッドやアルペーシユともテイストが異なることから、ウエイブインターを子

会社化した。「F1層向けはほぼ一段落した」とし、当面は海外企業を含め、それ以外の分野のM&Aを検討している。

◇ 佐伯ウエイブインターナショナル社長 94年の創業から20年近くが経過し、節目だと感じていた。TSIホールディングス、東京スタイルの力を借りて、社員とともにもう一度売上高100億円という大きな夢の実現を目指したい。会社の足腰も強くなり、社員の安心感も増す。都心部については一定程度攻めてきた。売の場面積50坪でメンズ、レディス、雑貨を複合し、売上高5億円を実現できる

パッケージを確立し、「マニックス」もモデルチェンジしたい。そうすることで、TSIH D、東京スタイルグループの企業価値の向上にもつながると考えている。